



発行所
安芸郡芸西村
芸西病院
TEL 0887 (33) 3833

発行責任者
岩村 久
http://okura-kai.com/
geisei/



平成最後の芸西病院だより
芸西病院院長 岩村 久

三十年前、平成になった最初の日、朝から一月にしてはやけに生暖かい風が吹いていたことを思い出します。

今年五月の改元が発表されて以降、何かにつけ、「平成最後の」という枕詞が冠せられています。芸西病院だよりもこの百九十六号が「平成最後の」発行となります。

平成の時代は戦争がなかった、巻き込まれなかったという意味では平和な時代でした。しかし、豪雨、大地震など災害が目立った時代でもありません。平和だからこそと言えるのかもしれませんが。

元年四月、消費税法が施行されました。この時の税率は3%でした。五年に5%、二十六年に8%とアップし、今年〇〇元年十月10%に改定予定されています。

三年六月、雲仙普賢岳火砕

流災害。七月、私が院長就任。募金を被災病院に寄付しました。

六年一月むつき保育所、二月如月ホール落成。

七年一月阪神淡路大震災。十一月訪問看護ステーションげいせい開設。

八年病院増改築工事完成。九年リハビリテーション科開設。在宅介護支援センターげいせい開所。十八年村へ移管のため閉所。

十年介護老人保健施設リゾートヒルやわらぎ開設。職員数が一気に増えました。この年、九月高知豪雨災害。私も含め数名の職員の自宅も水没しました。大勢の職員が後片付けに駆け付けてくれました。

十二年介護保険法施行。十四年土佐くろしお鉄道こめんはなり線開通。昭和四十年着工、完成まで三十七年を要した昭和から平成にまたがる難産事業でした。野市の田んぼの中に高架の数メートルだけが長い間残っていました。今、その付近で南国安芸道路の建設工事が進んでいます。

ここまで平成前半は入院、入所の施設設備の拡充が進んだ時期と言えます。

そして後半は通所、在宅サービスの充実へと進んでゆきます。

十六年四月グループホームげいせい一星のみえる丘一開設。八月総合リハビリテーション棟開設。

十八年七月グループホームげいせい一星のみえる丘一新館増築。

十八年八月ヘルパーステーションげいせい開設。二十六年諸般の事情により閉鎖。

十九年五月精神科デイケアスタート。

二十三年三月東日本大震災。一万五千人以上が亡くなり、今も二千五百人余りが行方不明のままです。

二十七年七月医療法人みずき会はおくら会に合併吸収されその歴史に幕を閉じました。

二十八年四月熊本地震。

三十年は芸西病院創立四十周年、やわらぎ開設二十周年の記念の年でした。六月に大阪府北部地震、七月西日本豪雨、九月北海道胆振東部地震と大災害が続きました。

三十一年一月病院の耐震工事が開始されました。

さて、この拙文がお目に留まるころには新元号が発表されています。平成の時代もあとわずかとなりました。間もなく訪れる新しい時代を少しでも長く楽しみたいと思います。



芸西桜が丘公園からの春の風景

看 護 師
准 看 護 師
介 護 福 祉 士
ヘルパー2級

☆院内研修が充実しており、未経験の方も歓迎です。
☆24時間院内保育もあり、子育てしながら勤務可能です。
☆勤務は2交代制で、働きやすい環境が整っています。
☆高齢者ケア、精神科看護、地域保健福祉に関心のある意欲的な方、応募をお待ちしています。

求人

外来診察担当医 平成31年4月1日～

内 科	月		火		水		木		金		土	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
山崎 八木	山崎	八木	八木	清藤 (第1・3週)	山崎	八木	大西 (第1・3・5週)	山崎	山崎	麻生	休診	休診
	八木 (第2・4・5週)	山崎	山崎	八木 (第2・4・5週)	八木	八木	八木 (第2・4週)	山崎	山崎	山崎	山崎	休診
精神科	戒	岩村	岩村	岩村	藤戸良輔	戒	三宅	三宅	大畑	戒	戒	休診

～平成30年物語～

芸西病院 院内保育の巻

第一弾



むか～しむかし

今は昔、むつき保育所なるときに、こげなかわいい子供たちがおったそうじゃ。子供達は朝早くから起こされ、眠いのにご飯を食べさせられ、『早くしなさい、早くしなさい』と、言われながらも毎日保育所に連れて来られてたんじゃと。

慣れんうちは、お母さんから離れるのが嫌で、よう泣いとった。お母さんお父さんはと言うと、朝から晩まで芸西病院の為に、汗水たらしてよう働いた。夕方になって保育所に迎えにいくと、いっぱい遊んだかわいいわが子の笑顔に疲れはすっ飛んで、さあ明日も頑張ろう！って思えたんじゃとさ
おしまい



そんな赤ちゃんだった人達が、親子二世代で活躍されていますので、何人かにインタビューしてみました

- ①芸西病院を職場に選んだ理由
- ②芸西病院を職場に選んでよかった事や悪かった事

← むつき保育所



現在、看護師です

- ①家から職場が近くだったから
- ②母親と一緒に職場は嫌だったが、私が知らない職員さんでも（私の赤ちゃんの頃を知っている）歓迎を受けてうれしかった

M・Hさん



現在、理学療法士です

- ①もともと医療系の仕事に興味があった。看護職を叔父に勧められて、“血”が苦手だったのと、いとこがPTという事もあって理学療法士を目指した。芸西病院には実習でお世話になり、リハビリ部長に勧められての入職です。

K・Nさん



現在、看護師です

- ①託児所からここ（芸西病院）にいるので、自分の原点に戻ってみようと思って
- ②子供の頃から知っている人と一緒に仕事ができるのがうれしい

Y・Sさん



現在理学療法士です

- ①中学校時代に職場体験で芸西病院を見学したことがあった。高校時代は音楽関連の進路を考えていたが、親の反対もあり理学療法士の道に進んだ。親がケアマネージャーとして働いていた事、転職を考えていた時にリハビリ部長に誘われた事で芸西病院に入職した。今は天職と思っている。

M・Kさん

～芸西病院の懐かしい写真のご紹介～

平成2年夏のキャンプ（天狗高原）

患者さんと職員と一緒にキャンプに行っていました

平成元年秋 運動会 病院グラウンドにて芸西病院・藤戸病院の患者さん職員参加



▶ 天狗キャンプ場です

走る!!



「仮装応援大賞」
「カマヘンライダー」



わいわい高知で走ろう 高知龍馬マラソン2019

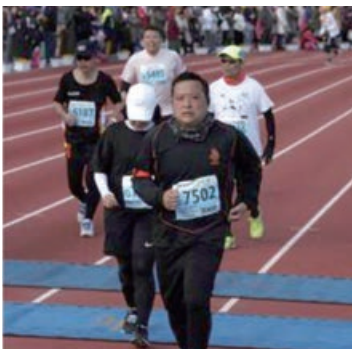
今年で7年目となる「高知龍馬マラソン2019」に当法人の職員もランナーとしてだけでなくボランティアとしても参加しており、それぞれ当日の様子について書いていただきました。

「高知龍馬マラソン2019」に参加して

訪問看護・リハビリ学療法士

緒方 裕一郎

今回第7回高知龍馬マラソン2019に参加しました。今回は、2016年4月29日に左足関節脱臼骨折という怪我をして、手術をしました。それまでは学生時代にサッカーをやったり、社会人になってからもフットサルや数回ハーフマラソン等に参加したりしていたのですが、その怪我以降は全くしておらず、日常生活においても、寒くなるとう術部が疼いたり、痛みを感じたりすることがありました。そのため今回なかなか出来ないことをしてみたいという私の急な思いで参加を決めました。練習はというと、3週間程度前から週末のみ5〜10km、時間にして1時間程度という、無謀な状態でスタートラインに立ちました。スタートラインに立つ



と周りのやる気に満ち溢れたみなさんの顔や人の多さを見て、場違い感を感じながら、いざ号砲がなるとスタートラインに間寛平さんがいて、ハイタッチが出来、15km程度までは自身でも嘘ではないかと感じるくらい、沿道からの声援が力になったり、エイドステーションでのおもてなしが充実して、お腹いっぱいになるくらい食べ物や飲み物を飲んだりして楽しみました。しかし、20km過ぎてからは、左足首痛により歩くしかできなくなりました。タイムは散々なものでしたが、妻や娘・義母も応援に来てくれ、なんとか完走することができました。娘は春野運動競技場に出ている屋台などで楽しんでいました。完走後の娘からの言葉はおつかれさまではなく、「パパ、来年も出てよ」という一言は、忘れる事ができない

い初マラソンになりました(笑)

「救護班に参加して」

A病棟 看護師 葛川 雄司

県看護協会の依頼で、H31 217マラソン大会の救護班に参加しました。

8時半頃に春野運動公園に着くも駐車スペースが無い程の、多数の参加者の方や応援者の車が止めており、意気込みが感じられました。自分の救護場所は県の医療施設の医師や看護師、県庁職員、福祉学生のボランティアなど総勢20数名で構成され、今大会の救護施設では一、二を争う大所帯です。写真のように救護班は真っ赤なスタッフジャンパーを着こみ、車椅子を10台構え、AEDを設置し、点滴やシップ薬にエアサロンパス、毛布等を準備し、救護体制を整えていました。傷病者を待つ間は、医師から去年の愛媛南予水害、広島県水害、東北震災時の体験やトリアージ物品と方法等の話を聞け、臨床で役立つ事ばかりで良かったです。

救護所には、13時過ぎからほぼノンストップで県下の西から東のバス会社から約50台のバスが次々と到着し『観光バスの宝石箱や〜』となり、傷病者がバスや救護車から運ばれ対応に追



「マラソンボランティアの楽しみ」

3B病棟 看護師 濱宇津 久美

今年の龍馬マラソンは1万1956人が走ったそうです。トップの人は、私たち給水ボランティアの顔をあつという間に駆け抜けて行き、「頑張れー！」

われ、あつという間に野戦病院状態となりました。中でも一番対応に苦労したのは、捻挫が原因でパニック状態になり、過換気症候群を合併したケースでした。低体温者も多く、毛布やアルミニウム製カウチが不足気味となり、捻挫や筋肉痛では、救護所付近はエアサロンパス臭で充滿し涙が出て辛かったです。

17時前に最後の救護者を無事に見送り、冬の一大イベントも終わり、やり切ったと言う達成感を得ました。この経験を臨床現場で活かしたいです。

ボランティアをしている私の楽しみは、バナナやゴリラやセーラムーンの仮装の人達が、ハアハア、ヨレヨレしながら走ってきて、立ち止まってポンカや文旦を味わって、中にはまた戻ってきてもう一回食べていくような人達を見ることです。この人達はある意味トップの人達以上に感動します。美味しかった。「頑張るよ」という言葉を言ってくれるのも嬉しいです。

給水ボランティアは今年で三回目ですが、毎回白いジャンパーとコンビニで使える60円チケットがもらえます。白いジャンパーが3枚たまったので、来年は救護ボランティアに参加して赤いジャンパーをもらうのもいいかなと思っております。救護は何もなければすることがないので暇な時間には後ろの方でバナナを切りながら「頑張れー！」「ゴールの後には美味しいビールが待ってるぞー！」と応援したいと思えます。

第22回文化交流会を終えて

精神デイケア 臨床心理士 石丸 茂偉

第22回文化交流会が平成31年2月27日(水)、高知県民文化ホール(グリーン)において開催されました。創作部門では、5施設から合唱、踊り、社交ダンスなど工夫を凝らした演目が発表され、のど自慢部門では9組の出場者が自慢の歌声でチャンピオンの座を競い、当院からもデイケア・病棟それぞれ1名の歌姫ならぬ歌殿?が出演してきました。メンバーさんが感想で言われているように、これまでの文化交流会とは違い、今回は会の全体を通して多彩な演目で新しい風が吹いたように思いました。そんな中、今回司会としても、歌手としても圧倒的なパフォーマンスでその存在感を十分に舞台上で披露してきた影山さんの名司会を中心に、当日の雰囲気をお伝えします。

会場が笑いの渦に 「優しさにあふれた心温まるインタビュー」

影山さん「お、お疲れさまでした。大変すばらしい歌声で感動しておりますけど、その身のこなしと聞いて、今日着ておられる衣装とか、もしかして昔野球が何かかされてたんじゃないでしょうか?」

出場者「いえ、剣道です」
会場「(笑)」
影山さん「あ、そつ、そうですね!でも剣道と言



えは...」

会場「(爆笑)」

影山さんと出場者との一コマを紹介しましたが、出場者一人ひとりに対して真摯に一生懸命話しかけ、がむしゃらに取り組むその姿は人を惹きつけて止まない何かを感じさせるとともに、影山さん自身も「交流」というその状況を自ら好んでいたようにも思えました。ただ、影山さんが出場者に対して歌唱力以外のことに触れていることが多く、その理由を聞いてみたところ、「僕はいじめられっ子で、人を観察しながら中学時代から現在に至るまで生きてきました。司会の席でこの人(出場者)が何を求めているか:僕が思い描く質問が間違っているかもしれないけど、こののど自慢は歌唱力だけでなく、表現力も審査につながると聞いていたので、歌だけにとられず、この人はこういう人ですよ」と、人柄がパフォーマンスにつながるように目に見えないものを引き出そうと必死にやりました」との言葉を聞き、影山さんの優しさに溢れた司会は8組の即興の漫才を見ているようで、会場から笑いの絶えない時間と和やかな空間を提供していただきました。



のど自慢で

見事チャンピオンを受賞

影山さんの曲目は甲斐バンドの『安奈』。NHKのど自慢と同様、伴奏は判定の鐘で止められるため、合否に関わらず歌を最後まで歌い切ることが出来ず、①緊張感②もつと歌いたい③(2番の歌詞を覚えていないので)早く歌を終わりにしてもらいたい、影山さんはこの三拍子が入り混じって鐘の音を聞いていたとの事でした。ただ、「キンコンカン」の間合いが絶妙で、途中で(歌を)切られたけど歌い終えたような気持ちになるくらい伸び伸びと歌わせていただきました」と、日頃の練習の成果は存分に発揮できたようで、審査の結果、見事『チャンピオン』の座に輝きました。



司会と歌手の二刀流を見事果たしました。



その感想は、

「昔からトロフィーには夢があり、希望があり、取れそうでは取れない苦しい思いをしてきました。これで自分の夢は叶ったけど、『人の温かさ』や『悲しみを笑顔に変える力』、『失敗から自分を変えていく力』:トロフィー以上のものがこの文化交流会には転がっているの、これからも参加して自分の人生をより良いもの

にしていきたい」と言葉をもとめていただきました。本当にお疲れ様でした。私自身も一緒に喜び機会に巡り合えてとても嬉しい思い出となりました。



今年も第9回デイ展が開催され、共同作品、個人作品(手工芸・硬筆・絵画など)で佳作を多数受賞する他、「上手い」ということよりもこの「月」という字に自分の感性が素直に出ている。好きなように書いた感じがよく出ている」と、審査委員長から講評をいただいたAさんの書道が準グランプリを獲得しました。



↑当院の作品コーナーです。多数入賞に“創作の女王”も鼻高々!

準グランプリ作品と一緒に記念撮影するAさん

節分とひなまつり

グループホームげいせい 介護福祉士 廣末 佳子

2月3日、グループホームでは節分の豆まきを行いました。「鬼は外！福は内！」職員2名が鬼のお面をかぶり変装して「悪いお年寄りはいませんか？」「寝てばかりのお年寄りはいませんか？」と、スキンスリップもとりながら行い、途中、鬼退治に興奮しすぎた入居者の方が出るほどの盛り上がりでした。鬼に向かって元気に豆を投げ入居者の方が頼もしく見えたが、鬼は少し痛かったです。



豆まきの後のおやつは甘納豆。話はずみ、「甘納豆や豆を年の数だけ食べるのは難しいね」と言いながら、みんなで楽しくいただきました。

豆まきからちょうど一月後の3月3日、今度はひな祭りを行いました。

ホームの玄関先に飾っておられるお雛様と記念写真を撮り、お昼ご飯は、入居者さん達の大好きな五目ずしと刺身の盛り合わせにすまし汁。皆さん「おいしい！」と、あつという間にお皿は空になりました。



午後のレクリエーションでは「あかりをつけましょ ぼんぼりに〜♪」とスタンプが歌い始めると「お花をあげましょ 桃の花〜♪」と入居者さん達が続き、楽しく合唱。おやつの中には、ひなまつりケーキを目にして「うわ〜きれい！」「おいしそう！」と、

みなさんケーキもペロリと食べてくれました。いくつかになっても『花より団子』。おいしく食べれることは幸いです。

今年も入居者さん達が健やかに、行事や食事を通して季節の移ろいを感じる事ができるように、スタッフ一同協力していきたいです。



リレーエッセイ No.57 「ヒヤシンス栽培」

看護部長 角谷広子

三年ほど前から、秋になると私はヒヤシンスの水栽培を楽しんでいます。子供の頃にクロッカスの水栽培をしたことを思い出したことがきっかけです。

水栽培のコツは発根にあります。発根するまでは、球根の底の部分に水が触れる程度に水加減を調整します。水が球根の本体にまで上がっていると腐敗の原因になるので要注意です。発根するまでは、少なくとも二、三日に一回は水を新しいものに交換します。その時に、発根状態をしっかりと観察します。力強い真っ白な根が複数本伸びると、その後の育成はスムーズです。

球根の底から密集して根が出てくると根の部分だけが水に浸かるようにして、球根の底には水が触れないようにします。この先の水の交換は一週間に一回程度で大丈夫です。

ところが、一週間経っても、二週間経っても発根しない球根があります。球根の底にぬめりが付き、球根の皮にカビが発生することもあります。その場合は、流水で優しくぬめりを除去し、カビの生えた皮をはがして球根を洗い、クッキングペーパー

一等でそっと拭いて乾かし、再度、球根の底の部分だけが水に浸るように水加減を調整します。時には、もうこの球根だめかなと諦めそうになりますが、気長く世話をしていると、先に根を伸ばした球根よりも太い根が生えて、後からお先にと、きれいな花を咲かせることがあります。ヒヤシンスの花言葉は、スポーツ、ゲームなどありますが、「悲しみを超えた愛」という花言葉に惹かれます。



第41回みずき祭
 開催のお知らせ
 時間、内容等鋭意検討中♪
2019年5月26日(日)
 作品展示、音楽など楽しい催し。
 ～地域からの協力出店多数～
 皆様の支えがあって今年も開催！

やわらぎ通信

リゾートビルやわらぎ
運営理念

その人らしさを尊重し
人と人とのつながりを大切に
明日につなげるケアをめざす

新たな年度、新たな元号令和を迎え、

新チームやわらぎ誕生！」

施設長 中本 雅彦

新年度、新元号、新メンバーとなりおめでたい2019年春となりました。当施設は看護・介護スタッフで構成する看護部、理学療法士・作業療法士等で構成する機能訓練部、社会福祉士などの支援相談員で構成する医療福祉部相談室に新たな仲間が加わりました。新旧スタッフを含め新体制の令和リゾートビルやわらぎをよろしく願います。他部署へ移動した皆さん、新たな部署でもご活躍ください！



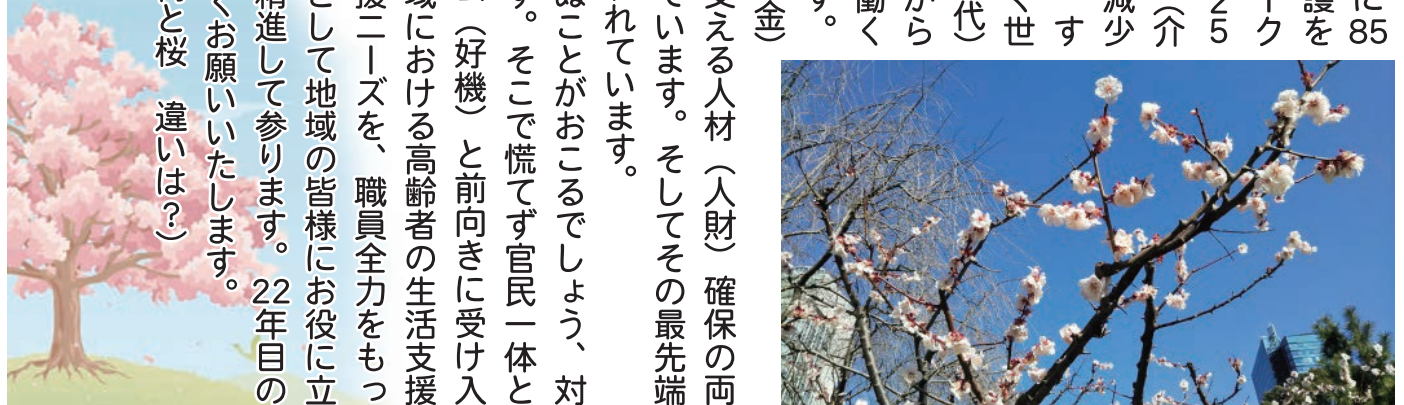
さて、昨年度はわが国の厳しい予算・社会保障財源の下、診療報酬・介護報酬・障がい者サービス報酬・生活保護等、私たちが国民の暮らしの質に直結する各種制度改正が施行されました。また高知県の医療計画および高齢者保健福祉計画・介護保険事業支援計画、障害者福祉計画が見直しされ、2025年（6年後）に向け一刻も早い要介護高齢者等の在宅（自宅）生活を基盤とした地域包括ケアシステムの実現が急務となっています。

2025年以降は、加速度的に85歳以上高齢者が増加し医療・介護を必要とする高齢者の人口数はピーク期に達してまいります。一方で、2025年前後を境として、40歳から64歳（介護保険第2号被保険者）の人口減少がこれまで以上に急加速します。すでに20歳から39歳の若年層（働く世代、税金を納め次世代をつくる世代）は2015年（平成27年）前後から急減少し始めており現役世代（働く世代）の縮小が顕在化しています。よって社会保障財源（保険料と税金

及び介護や医療・福祉の現場を支える人材（人財）確保の両面において、大きな課題を抱えています。そしてその最先端を走るのが私たちの高知家と言われています。

これからも最先端では予期せぬことがおこるでしょう、対処の方法も未知の領域となります。そこで慌てず官民一体となり、目前の出来事を貴重な機会（好機）と前向きに受け入れ考えたいです。その上で、地域における高齢者の生活支援ニーズから介護ニーズ・在宅支援ニーズを、職員全力をもって見極めながら、老人保健施設として地域の皆様にお役に立てるサービスを提供できるよう精進して参ります。22年目の「令和チームやわらぎ」をよろしく願います。

（写真：今年三月東京芝公園の梅と桜 違いは？）



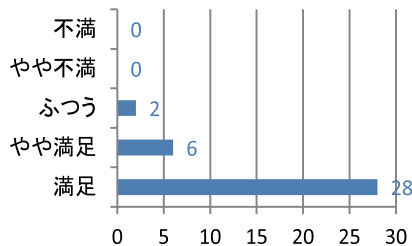
平成30年度利用満足度アンケート調査

「利用満足度アンケート調査」にご協力いただきました皆様ありがとうございました。年に1度実施しております本アンケートは地域のニーズ、ご利用者・ご家族皆様のニーズを知る貴重な機会となります。

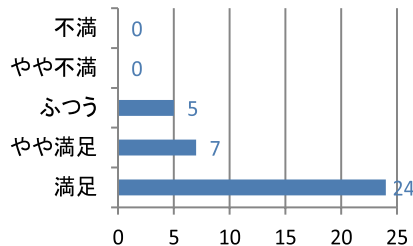
今年度は2019年1月～2月にかけての約一か月間、全サービスご利用の皆様へご協力をお願いし、通所リハビリは回収率57%（ご回答者37名）、短期入所・入所は51%（ご回答者37名）となりました。個々のケアや接遇、環境設備に関するご要望から改善に向けての厳しいお声、また感謝の思いや今後への更なる期待のお声もたくさんいただきました。ここに皆様へご報告させていただきます。なお当該紙面スペースに限りがありますので、具体的な記述式返答につきましては施設内掲示のみとさせていただきます。ご協力いただきました皆様へ心から感謝申し上げます。

平成30年度入所・短期入所利用満足度アンケート調査 結果

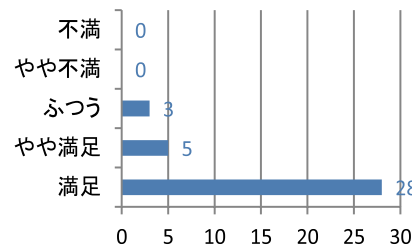
挨拶



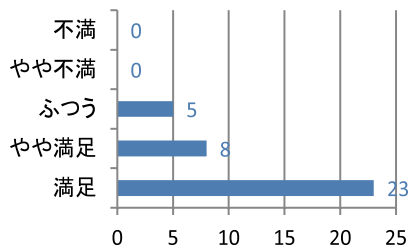
清潔



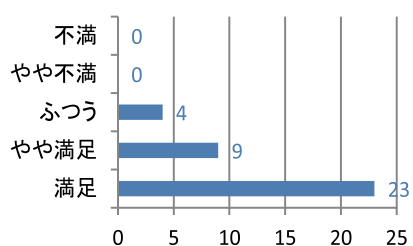
言葉



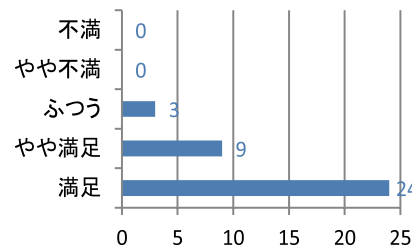
笑顔



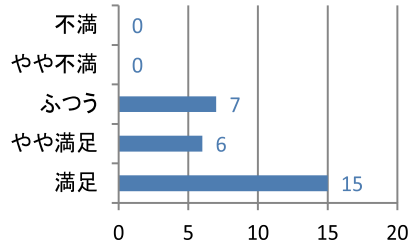
気配り



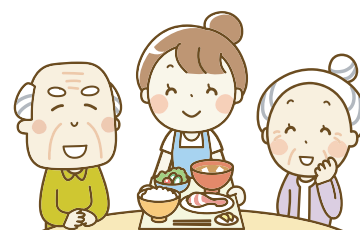
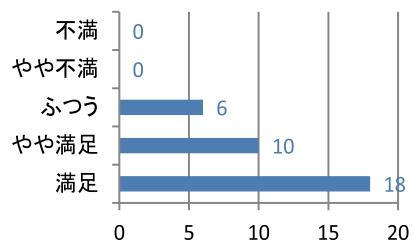
聴く

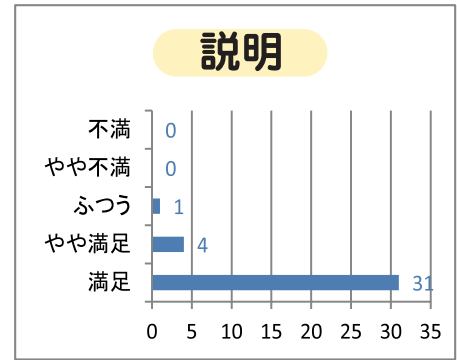
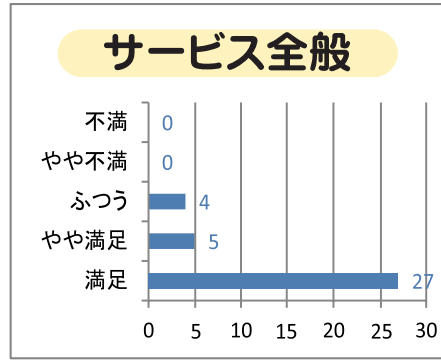
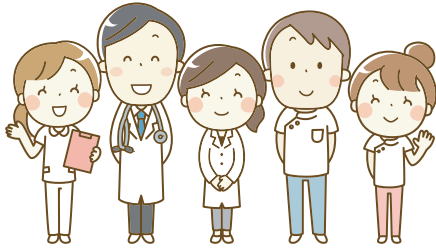


食事

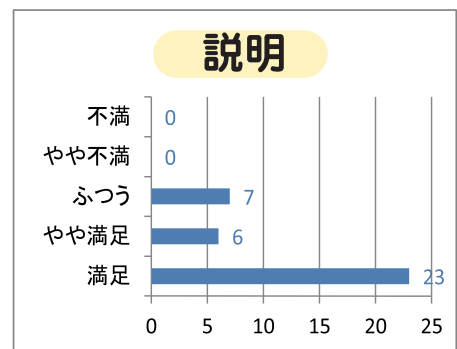
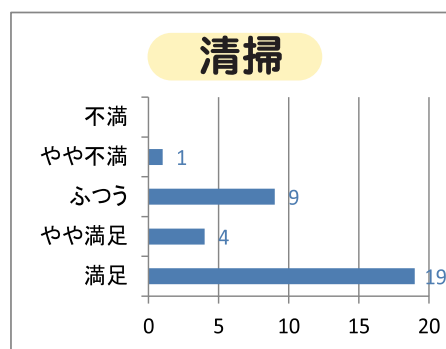
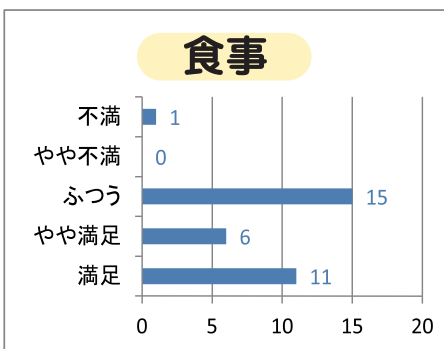
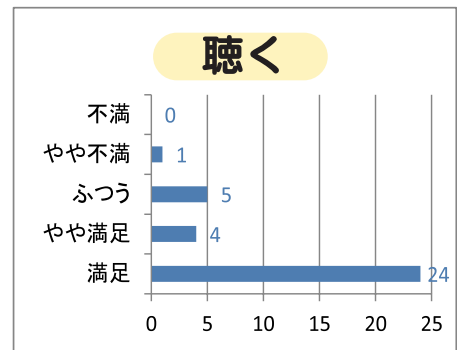
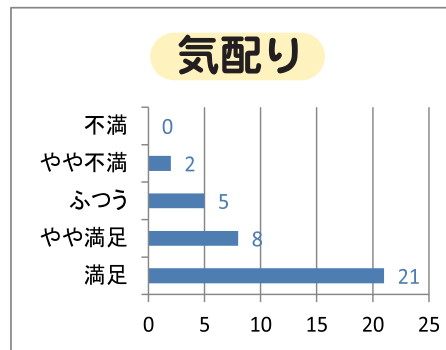
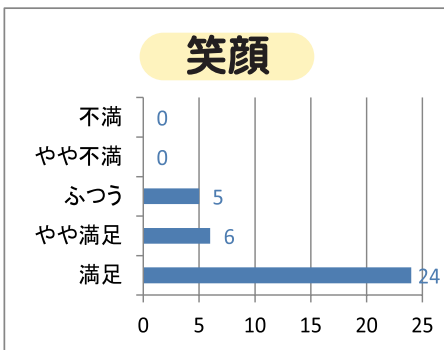
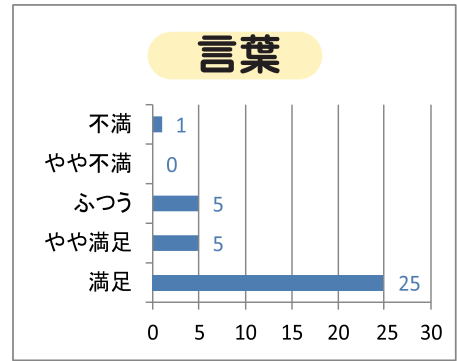
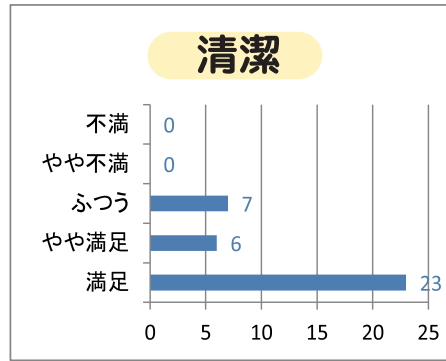
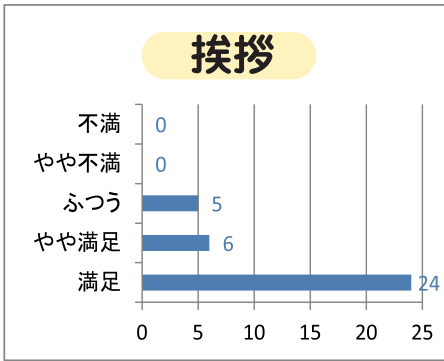


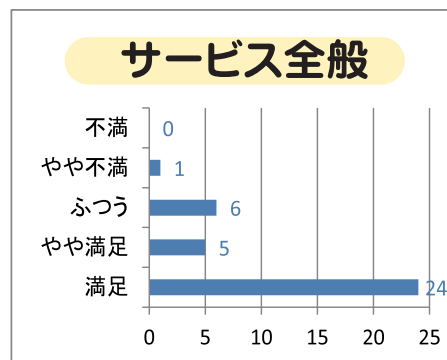
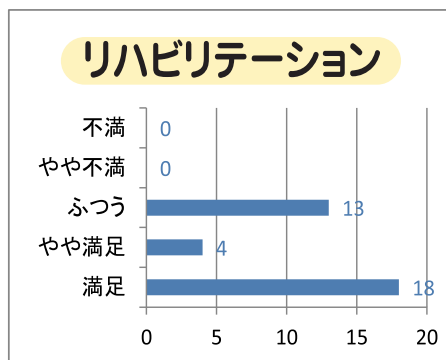
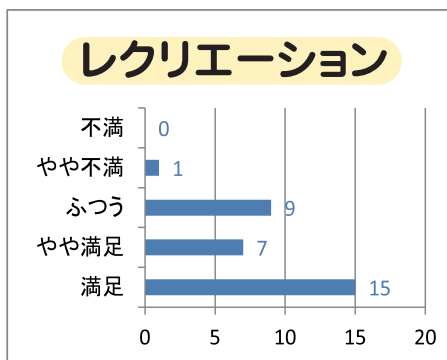
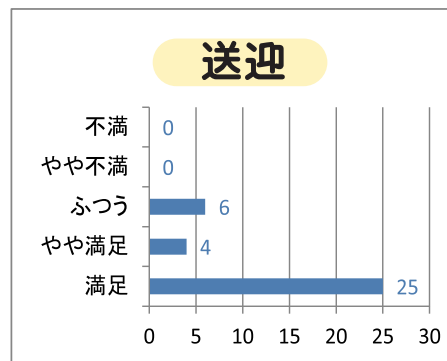
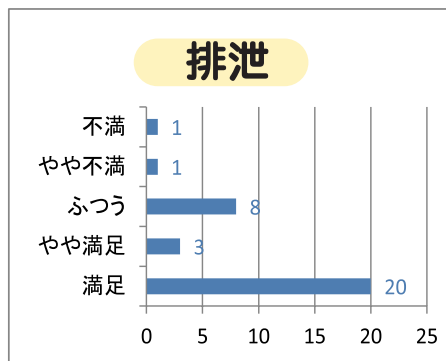
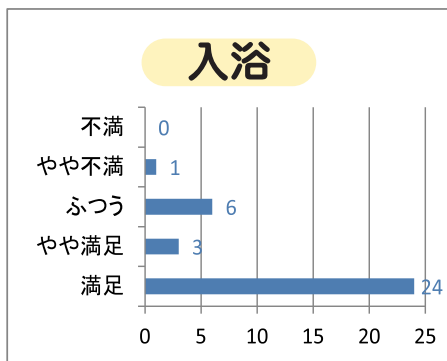
清掃





平成30年度通所リハビリ利用満足度アンケート調査 結果





平成30年度 高知県介護老人保健施設協議会 第2回災害対策研修会

「災害イメージ力アップのため」に参加して

事務主任 山脇 園

1月25日、ちばさんセンターにて高知県介護老人保健施設協議会の開催した第2回災害対策研修会に参加しました。研修会是一般社団法人福祉防災コミュニティ協会の代表理事「鍵屋一」先生による福祉施設の事業継続計画（BCP）作成についての講義とグループ討議の2部構成になっていました。

発災時、一番大切なことはまず自分の命を守ること、次に身の回りにいる方を助けることです。しかし命を守れても、その後の施設の機能が停止してしまえば、施設に入所されている方々が困ってしまいます。介護施設としてできる限り早く運営の再開ができることそれがそのまま地域の助けにもなります。そのために事業継続計画（BCP）の作成が必要となります。鍵屋先生のユーモアを交えながらの講義は、BCPの全体イメージがつかめるものでした。

講義に続き、東日本大震災発災時ある施設のとした避難行動の事例を参考に、各々が、自分の施設で取り入れたい点、想定外で驚いた点など、気づいた点を付箋に書き、テーブルに広げてある模造紙に貼りながら、グループ討議を行いました。この方法は大変具体的に意見も出しやすく、また、他の方の「気づき」から学べることも多々ありました。

介護施設は、平時から市町村や地域住民と一緒に災害計画の作成・訓練実施・改善に取り組まなければならない。介護施設で働く者として、災害対応の覚悟を持つことが必要であり、そして何より自分の命を守らないと次の行動には移れないということがこの研修を受け実感できました。



第20回 高知県介護老人保健施設大会に参加して

通所リハビリテーション 介護助手 安岡 将斗

3月10日 第20回高知県介護老人保健施設大会に参加しました。

「この世はみんなの花を咲かせに来たところ」こう語ってくれたのは、五台山竹林寺海老塚和秀住職でした。お遍路さんとの数えきれないほどの出会いに触れ、そこで教えてもらったという貴重な経験のお話でした。

特に記憶に残っているのがお風呂の話です。「上の方は温かく下の方は冷たいお風呂に入った時、大切なのは温かいお湯を自分の方にかき集めるのではなく、外へ外へとお湯を混ぜることである。それによって自然と自身にも温かいお湯が流れてくる。これは人生にも通じるものである。なぜ自分の花を咲かせることができなの？それは、みんなの花を咲かせようとしなからずである。みんなの花を咲かせようとすれば、やがて自分の花も咲くでしょう。」と素晴らしい笑顔で語ってくださいました。



また、30箇所の事業所の取材を行って制作した「ケアニン」という映画を視聴しました。ご利用者の通所から看取りまでの流れを順に追いつつ、そのケアマネジャーの対応などを大変わかりやすくまとめた映画でした。ネガティブな話を取り上げられやすい介護職を前向きに教えてくれるこの映画の存在をとても嬉しく思いました。この映画を視聴して、介護の現場に理解のあ



る人が増えたら、子供もお年寄りも安心して暮らせる社会へと繋がっていくように思えました。

最後に、開設22年目へと突入した当施設が、高知県介護老人保健施設協会より、多年にわたるご高齢者の福祉・保健・医療向上に努めたということで、表彰を受けました。嬉しさと励みと重みを感じ、これからも日々頑張っていきたいです。

1月新年会



2月節分会

